

彩北通信

月刊 No. 147
2019年5月1日発行
発行元：彩北進学塾
発行責任者：蓮 克彦

〒366-0827 埼玉県深谷市栄町 17-2

TEL 048-575-3291 E-mail: info@saihoku-juku.com



蓮塾長のブログ(彩北日記) <http://ameblo.jp/saihoku-sj/>

中学生はいよいよテスト

5月は、今年度最初の定期テストが行われます。中学1年生にとっては中学校での初めてのテストになります。今の埼玉県の公立高校入試においては内申点の重要性は言うまでもありませんが、その内申点に大きくかわるのが、中学校の定期テストになります。中2・3年生は何度も経験しているので、最初のテストでつまづかないように早めに準備を始めましょう。前学年3学期後半の復習も忘れずに。中1生は、中学校のテストがどんなものをまず知るテストになるわけですが、小学校とは違い、何も勉強しないで点数は取れませんので準備をしましょう。

◎名言・一言

登る山の道のりがどんなに遠くても、一步一步歩いたら、いつかはたどり着ける。あきらめないことです。

今西壽雄(登山家)

☆貴方に送る今月のおすすめ☆ 今月のおすすめは、本です
『そして、バトンが渡された』(瀬尾まいこ 著)

森宮優子、十七歳。継父継母が変われば名字も変わる。だけどいつでも両親を愛し、愛されていた。この著者にしか描けない優しい物語。「私には父親が三人、母親が二人いる。家族の形態は、十七年間で七回も変わった。でも、全然不幸ではないのだ。」身近な人が愛おしくなる、著者会心の感動作。

■最近のニュースから■

柴山昌彦文部科学相は17日、少子化や人工知能(AI)の発展など、新しい時代に対応した小学校から高校段階に至る今後の教育の在り方に関する総合的な検討を中央教育審議会(中教審)に諮問した。現行の教員免許制度を見直し、小学校への教科担任制の導入を図るほか、高校の普通科を専門性の高い学科に再編することを柱としている。中教審では今後、約1年半にわたり審議、来年末をめどに答申をまとめる方針だ。

諮問では、学校教育の現状について、全国学力テストの結果などから「全体的な底上げが確実に進んでいる」と分析。一方で課題として、主に小学校では少子化などによる教育環境の変化があり、高校では「大学受験に最低限必要な科目以外について生徒が真剣に学ぶ動機を低下させている」と指摘した。

このため義務教育の9年間をひとくくりに捉え、(1)小学校で基礎学力の確実な定着に向けた方策(2)小学校に教科担任制を導入(3)そのために教員免許制度を見直す(4)高校で文系・理系の枠を超えた教育を推進(5)外国人児童・生徒への指導力向上などを検討するよう中教審に求めている。

文科省によると、教科担任制の導入は主に小学5、6年生を想定し、探究活動などを充実させる。一方、1～4年生は基礎・基本をより重視したカリキュラムを目指すとしている。

柴山文科相は17日の中教審総会で「急激な社会変化が進む中で、子供たちの能力をより確実に育成することが求められている」と述べた。

2019.4.17 産経新聞

▽勉強方法ワンポイントアドバイス▽

睡眠時間

勉強することは良いことですが、きちんと睡眠時間は確保しましょう。睡眠時間をきちんと決めたいので、残りの時間をどう使うか考えてください。睡眠時間をしっかりと取ることも勉強のうちです。いかに寝なかったかなどちっともえらくもなんともありませんし、すごくもありません。百害あって一利なしということです。

ディズニー情報

東京ディズニーランド

ワンマンズ・ドリームⅡ
ーザ・マジック・リブズ・オンは
2019年12月13日(金)が最終公演

